

産業革命に学ぶ仕事の変化

人工知能（AI）の利
用が拡大することで私た
ちの雇用はどのような影
響を受けるのだろうか。
巨大なIT企業などでプ
ログラマーなどの大量解
雇が予定されているとい
う話を耳にすると、AI
が私たちの雇用を奪って
いくという悲観的な見方
をしてしまう。

ただ、現在の日本のよ
うに少子高齢化の中で深
刻な人手不足が続いてい
る状況では、AIが人手
不足を緩和するという明
るい面もある。

AIが雇用や所得など
に及ぼす影響を考える
際、よく比較対象とされ
るのは1700年代の中



伊藤元重の

エコノウオッチ

ごろから始まり、180
0年代にかけ発展した産
業革命だ。産業革命によ
って、マクロ経済に2つ
の大きな変化が起きた。

1つは経済成長率が膨
らんだことにより、社会
全体の生産や所得が急拡
大したことだ。もう1つ
は技術進歩によって増え
た所得の中で資本家の取
り分が増えていくという
分配の変遷である。一方
で、労働者の取り分はど
うなっただろうか。

労働者の賃金は長い期
間、上がらなかった。産
業革命以前は肉体労働で
担っていた仕事が機械に
代替されたためだ。機械
に仕事を奪われたとの人

AI取り込み労働価値向上を

々の怒りが広がり、18
10年ごろには「ラッダ
イト運動」という機械打
ち壊し運動が起こった。

機械を用意した資本金
への怒りが強かったこと
は理解するが、搾取され
ていたわけではない。所
得の分配率としては、労
働者の取り分はほとんど
変わっていなかった。農
業社会から工業社会に変
わることで地主の取り分
が資本家へと移動したと
いうのが、マクロ経済か
ら見た産業革命前半の出
来事になる。

ただ、その潮目は18
30年ごろから変わる。
減っても増えてもいなか
った労働者の取り分が顕
著に増え始めたのだ。

何が起こったのか。労
働力が労働者から機械に

代わるフェーズが終わ
り、労働者が機械を活用
し始めた。資本家が機械
による生産活動を続ける
には、労働者も無くては
ならなくなったのだ。こ
れは資本（機械）と労働
との関係性が「代替」か
ら「補完」へと変化した
ことを意味する。

技術革新はその後も続
くことになるが、こうし
た労働と資本の補完性が
前面に出たことで、労働
者の賃金上昇につながる
ことになる。

さて、産業革命の時代
の教訓が現在の状況にど
こまで参考になるかは分
からない。何十年も続い
た産業革命に比べて、A
Iの革命は短期間に集中
して起きている。また、
当時は農業社会から工業

社会への転換であった
が、現在は工業社会を超
えて情報化社会に大きく
転換しようとしている。
産業革命の時代との安易
な比較はできない。

ただ、代替と補完とい
うキーワードはAIの影響
を考える上で重要であ
ることは確かだ。

例えば単純なプログラ
ミングのようなAIに代
替される仕事はかなりの
スピードで淘汰されるだ
ろうが、感情や創造性に
関わることであったり倫
理的判断が求められたり
する仕事はAIだけでは
完結できない。AIに対
する補完的な機能が期待
される労働力の社会的な
価値はますます高くなっ
ていくだろう。

（東京大学名誉教授）